

平成 29 年度 活動報告

地域連携部門

1. はじめに

地域連携部門では、地方自治体等学外の組織や個人と連携して、シンポジウムやワークショップ等の開催を通じ、防災減災策の検討、防災啓発活動等に取り組んだ。また、防災に関する外部からの問い合わせや相談に応じた。以下は主な活動の報告である。

2. シンポジウム等の開催

(1) 防災シンポジウム「熊本地震に関する鹿児島大学の活動報告」

2018年4月8日(土)、防災シンポジウム「熊本地震に関する鹿児島大学の活動報告」(地域防災教育研究センター主催)を鹿児島大学稲盛会館で開催した。学内外から140名の参加があった。

このシンポジウムは、本学の多くの教員が取り組んだ熊本地震に関する調査・研究活動を市民に紹介するとともに、得られた知見や教訓を地域の防災に活かすことを目的として開催された。

高松英夫理事(研究担当)の開会挨拶の後、小林励司准教授(教育部門長)の進行のもと、山成實教授(熊本大学)の招待講演を皮切りに本学の教員6名が調査結果を報告した。会場からは活発な意見や質問が出された。最後に、浅野敏之地域防災教育研究センター長の閉会挨拶があり、参加者にとって地震災害とその防災について考える貴重な機会となった。

(2) 原子力災害対応セミナー「福島の震災から災害支援について考える」

平成29年9月18日(月)鹿児島大学医学部共通教育棟401教室(桜ヶ丘キャンパス)で、「原子力災害対応セミナー」(公益財団法人原子力安全協会主催、地域防災教育研究センター共催)が開催された。医学部保健学科の学生に加え、大学病院の診療放射線技師や看護師、市内の医療系専門学校の診療放射線技術科の教員、診療放射線技師の24名の参加があった。

このセミナーでは、長崎大学医歯薬学総合研究科の吉田浩二准教授が「福島の震災から、災害支援について考える」と題して、「医療を学ぶ学生は何をすべきか、何ができるのか」について、東京電力福島第一原子力発電所事故での自身の経験をもとに看護職の立場から講演した。

(3) 福島医科大学出前講座「ヘルスリテラシー すぐに使える健康情報を伝える知識と技術」

平成29年10月10日(火)鹿児島大学桜ヶ丘共通教育棟501教室(桜ヶ丘キャンパス)

で、文部科学省リスクコミュニケーションモデルの形成事業として、福島県立医科大学出前講座ヘルスリテラシー「すぐに使える健康情報を伝える知識と技術」（医学部主催、福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション講座および鹿児島大学地域防災教育研究センター共催）が開催された。医学部の学生、大学院生に加え、教員からの20名の参加があった。

福島県立医科大学総合科学教育研究センター 後藤あや教授によるヘルスリテラシーに関する講義と、スマホアプリを使ったヘルスリテラシー評価についての実習があり、参加者はリスクコミュニケーションについて、具体的に学ぶことができた。

（4）平成29年度防災・日本再生シンポジウム「桜島大規模噴火を想定した災害医療体制の構築」

12月2日（土）鹿児島大学医学部鶴陵会館（桜ヶ丘キャンパス）において、平成29年度防災・日本再生シンポジウム「桜島大規模噴火を想定した災害医療体制の構築」（主催 地域防災教育研究センター、共催 一般社団法人国立大学協会、鹿児島救急医学会）が開催され、自治体の防災関係者、医療関係者、鹿児島地方気象台職員、学内教職員、学生など104名が参加した。

シンポジウムは、松成裕子 地域防災教育研究センター放射線災害分野責任者（鹿児島大学医歯学域医学系教授）の司会でプログラムに沿って進められた。冒頭、高松英夫 理事から主催者として開会挨拶があり、続いて一般社団法人国立大学協会の山本健慈 専務理事から共催者として来賓挨拶があった。

次いで、2つの講演があった。小林 哲夫 鹿児島大学名誉教授は、「桜島大規模噴火とその被害」と題して、歴史時代に起こった桜島の4大噴火（天平宝字、文明、安永、大正）の火山学的特徴と噴火被害について話した。石峯康浩 鹿児島大学地域防災教育研究センター特任准教授は、「大規模噴火時に求められる保健医療支援」と題して、火山噴火による人的被害の発生状況、人的被害の特徴、被害発生時の保健医療対策について話した。パネル討論に入って先ず、垣花泰之 鹿児島大学病院救命救急センター長から、パネル討論における想定噴火シナリオと話題提供者への要望（組織における災害対策の現状、桜島大規模噴火への対応状況、今後の課題）について説明があった。

続いて、岩松洋一 鹿児島県保健福祉部地域医療整備課長が桜島大規模噴火に対する県の災害医療の取り組みについて、松下剛 鹿児島市消防局警防課長が鹿児島市の桜島噴火災害対策と消防部局の防災対応について、吉原秀明 鹿児島市立病院救命救急センター長が病院における噴火災害対応について、有村敏明 パールランド病院名誉院長が県医師会としての災害医療対応について、宇田英典 鹿児島県保健福祉部医療審議監（兼）伊集院保健所長が大規模災害時における保健所の役割と活動について、それぞれ話題提供を行った。

パネル討論は垣花泰之を進行役として、上記の話題提供者に小林哲夫、石峯康浩の両氏も加わり、「桜島大規模噴火シナリオと時間軸から見た災害医療」をテーマにして行なわ

れた。進行役からの問いかけに対し、パネリストから多くの意見が出された。会場の参加者からも多数の意見が寄せられ、活発な議論となった。

最後に、浅野敏之 地域防災教育研究センター長の閉会挨拶でシンポジウムを閉じた。

(5) ワークショップ「原子力災害時の防災」(開催予定)

平成30年2月12日(月)鹿児島大学医学部共通教育棟インテリジェント(桜ヶ丘キャンパス)で、防災ワークショップ「原子力災害時の防災」(主催 環境省、地域防災教育研究センター)を開催する。

このワークショップは2部から構成される。第1部では「何が起きたのか」、福島第一原子力発電所事故を踏まえ鹿児島県の原子力防災への備えや食の安全に関する取組について、第2部では「我々は何をすべきか」、原子力発電所事故への対応、また備えるべき放射線の知識の講話やリスクコミュニケーションについて、福島で活動された専門家が講演し、原子力災害の防災方策について考える。

(6) 防災ワークショップⅡ：大規模火山噴火に備える地域防災(開催予定)

主催 総務省 安全安心フォーラム、地域防災教育研究センター

開催日 平成30年3月3日(土)

会場 鹿児島大学稲盛会館(郡元キャンパス)

3. 地域との連携による事業の実施

(1) 大規模火山噴火にレジリエントな地域社会の実現に向けた防災・減災の取組

専門部会の開催

平成30年2月20日(火)、大規模火山噴火にレジリエントな地域社会の実現に向けた防災・減災の取組専門部会が開催された。

(2) 大規模火山噴火にレジリエントな地域社会の実現に向けた防災・減災の取組専門部会ワーキンググループの設置と開催

大規模火山噴火にレジリエントな地域社会の実現に向けた防災・減災の取組専門部会の下に、平成29年度は大規模火山噴火と関連現象ワーキンググループ(WG1)と、大噴火時における交通被害ワーキンググループ(WG3)を設置し、大規模火山噴火災害の仕組み、防災減災策について検討を開始した。WG1では噴火シナリオや噴火関連現象、降灰の定量的予測等について検討するとともに、ワーキンググループ全体の検討結果を総括することとしている。WG3は火山噴火と噴火関連現象が交通に与える被害の評価と軽減策、道路啓開等について検討している。なお、生命と暮らしワーキンググループ(WG2)と産業ワーキンググループ(WG4)については、次年度以降の設置を予定している。

(3) 文部科学省実践的防災教育総合支援事業の支援

県教育委員会「防災教育モデル実践事業」(文部科学省「実践的防災教育総合支援事業」委託)において、県・市町教育委員会からの要請を受けてモデル校へ防災教育アドバイザーの派遣および防災実践指導を行っている。平成29年度は指宿市と大崎町で実施した。

① 大崎町実践的安全教育総合支援事業

拠点校である大崎町立大丸小学校、連携校である大崎町立菱田小学校、大崎中学校を中心に、大崎町役場、志布志消防署、鹿児島県教育庁、大崎町教育委員会、鹿児島地方気象台、鹿児島大学地域防災教育研究センターで組織され、下記の様な活動を実施した。本センターからは浅野敏之センター長と井村隆介理工学研究科准教授が参加した。

第1回推進委員会

平成29年8月18日(金) 10時30分～12時00分 大崎町中央公民館 第一会議室

第2回推進委員会

平成29年10月28日(土) 12時00分～16時00分 大崎町中央公民館および大崎町役場駐車場

当日、大崎町教育委員会主催、鹿児島大学地域防災教育研究センター後援で「みんなで話し合う防災サミットー自分の命は自分で守る 自助のための対策」を開催した。鹿児島地方気象台などの出前講座、体験活動、大丸小学校、菱田小学校、大崎中の児童・生徒の発表、井村隆介准教授による基調講話があり、244名の参加があった。

第3回推進委員会



平成30年2月7日(水) 14時00分～16時00分 大崎町中央公民館 第一会議室

② 指宿市実践的安全教育総合支援事業

本事業の委員会は、鹿児島大学地域防災教育研究センター、鹿児島大学大学院理工学研究科、鹿児島地方気象台、指宿市立学校、鹿児島県教育庁、指宿市役所、指宿市校区公民館で組織され、下記の様な活動を実施した。本センターからは、柿沼太郎理工学研究科准教授が参加した。

第1回推進委員会

平成29年6月16日(金) 13時00分～14時30分 指宿市役所 3F 大会議室 A

指宿小学校地震・津波避難訓練及び職員研修

平成29年6月26日(月) 13時35分～16時45分 指宿市立指宿小学校・避難場所

まず、指宿小学校全校と、隣接するみどり幼稚園全園による、近くの高台までの地震・津波避難訓練が実施された。次に、避難訓練の反省点等に関して研究協議が行われ、指導助言があった。そして、柿沼太郎准教授による指導講話があった。

指宿市校長研修会

平成 29 年 8 月 29 日（火）13 時 10 分～16 時 40 分 指宿市役所 3F 大会議室 A

指導講話、指宿市長講話、研究協議等の後、柿沼太郎准教授による講話があった。

指宿市立丹波小学校防災教育実践報告会

平成 30 年 1 月 26 日（金）13 時 50 分～16 時 40 分 指宿市立丹波小学校

まず、指宿小学校教員により、「災害から身を守る」と題した公開授業が、第 6 学年の学級活動として実施された。次に、全体会 I において、実践報告、授業研究、研究協議及び指導助言が行われた。そして、全体会 II において、柿沼太郎准教授による指導講話があった。

（4）他機関との共同研究等

気象庁気象研究所「気象レーダを活用した火山噴煙に関する研究」（平成 26 年 4 月から平成 29 年 3 月）、および一般財団法人日本気象協会 「マルチパラメータレーダの観測精度向上及び観測データを用いた短時間気象予報に関する研究」（平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月）が継続して実施された。

4. 外部からの問い合わせや相談、訪問への対応

自然災害に対する事業継続計画（BCP 計画）策定をはじめとした企業等の防災活動についての相談やセンター訪問に応じた。

に応じた。

（1）企業等からの相談等

自然災害に対する事業継続計画（BCP 計画）策定をはじめとした企業等の防災活動についての相談やセンター訪問等に応じた。

（2）国分高等学校の生徒が訪問

平成 29 年 7 月 24 日（月）、国分高等学校理数科 2 年生 9 名を受け入れた。これは、科学技術振興機構の支援事業「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」に採択された国分高等学校の「主体的な科学研究実践活動を推進」に伴い実施されたもので、眞木雅之センター特任教授が科学研究の進め方や実験技術等について助言を行った。